
QA41 事故当時妊娠していました。放射線の影響はありませんか

胎児が放射線を受けた場合のがんリスクは、成人が受けた場合より 2～3 倍程度高いと考えられるといわれています（ICRP Publication 103）。しかしながら、妊娠期間中に被ばくした放射線量が 100 ミリシーベルト以下では胎児への影響（奇形、精神遅滞など）は起こらないと考えられています。

また、胎児へのその他の影響（小児期や成人期での発がん）について、現在の状況で住民の方が受ける可能性のある少量の放射線から予測される危険性は、生活習慣など放射線以外のものを原因として生じる危険性と比べて、遥かに小さいと考えられます。

また、福島第一原発事故の影響で受ける累積の放射線量は、世界各地で受ける自然放射線の累積量の違いの範囲内におさまる程度であると考えられます。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関する Q&A」より作成

出典の公開日：2012 年 4 月 13 日

本資料への収録日：2012 年 12 月 25 日